

都市再生整備計画 事後評価シート

湯田温泉周辺地区

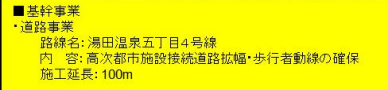
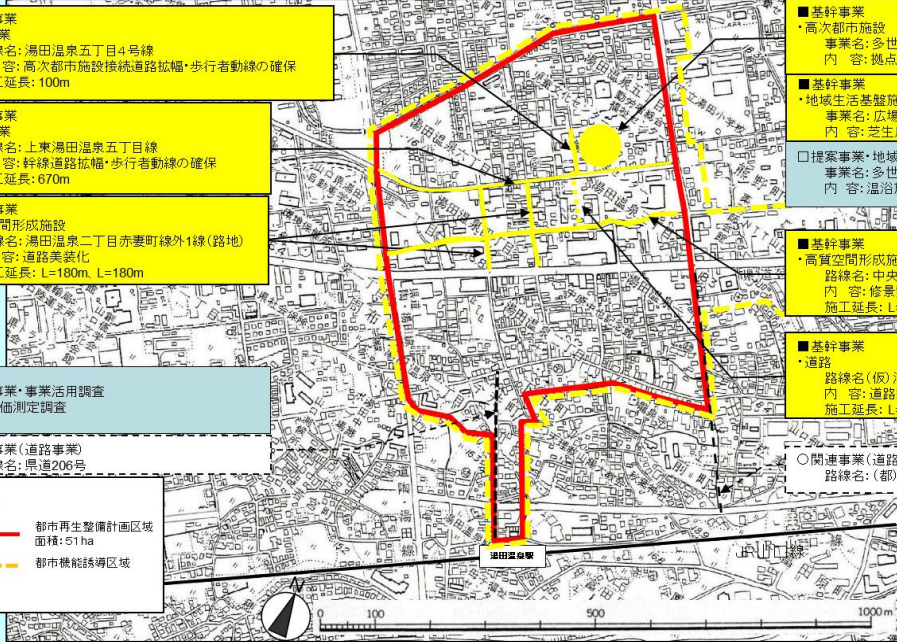
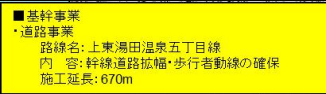
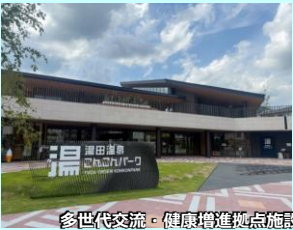
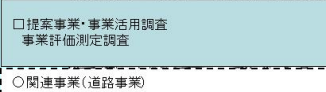
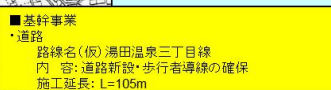
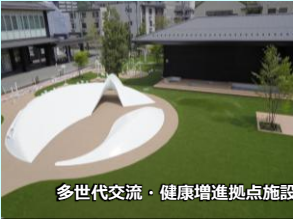
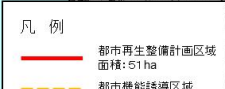
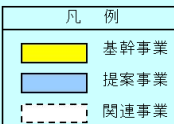
令和7年10月

山口県山口市

様式2ー1 評価結果のまとめ

都道府県名	山口県		市町村名	山口市		地区名	湯田温泉周辺地区			面積	51ha			
交付期間	令和2年度～令和7年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	3,070	国費率	0.5					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名												
		基幹事業	上東湯田温泉五丁目線道路整備事業、高質空間形成施設整備事業(中央二丁目湯田温泉四丁目線(錦川通り)、湯田温泉二丁目赤妻町線外1線(路地))、高次都市施設(地域交流センター)整備事業(多世代交流・健康増進拠点施設)											
		提案事業	地域創造支援事業(多世代交流・健康増進拠点施設)、事業活用調査(湯田温泉周辺地区)											
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業(井上公園(自転車駐車場))					井上公園の利用者の状況や歴史公園としての景観上の配慮等から駐輪場整備を見合わせることにした。			数値目標への影響はない。			
	提案事業	なし					—			—				
	新たに追加した事業	基幹事業	湯田温泉五丁目4号線道路整備事業					高次都市施設(多世代交流・健康増進拠点施設)の基本計画の策定に伴い、主要動線として整備することとしたため。			数値目標への影響はない。			
		基幹事業	地域生活基盤施設整備事業(広場)					高次都市施設(多世代交流・健康増進拠点施設)と一体的な空間を構成する広場整備の内容が決定したため基幹事業として追加するもの。			数値目標への影響はない。			
		提案事業	なし					—			—			
	交付期間の変更	当初	令和2年度～令和7年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
変更	—													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	多世代交流・健康増進拠点施設、観光案内所の年間利用者数	人/年	0	R2	100,000	R7	モニタリング	100,000 (R7年10月8日)	○	あり	令和7年6月の多世代交流・健康増進拠点施設のオープンに向けて、事前の周知・啓発活動や各種イベント等を計画的に実施したことで、目標値を上回る年間利用者数となった。	-	
											なし			
	指標2	多世代交流・健康増進拠点施設、温泉街間の通行量	人/12時間	1,150	H27	1,265	R7		772	×	あり	地区内の道路拡幅や美装化、修景整備を計画的に進めてきたが、計測地点付近の宿泊施設の閉館に伴い、歩行者動線が変化したこと、従前よりも通行量が減少したと考えられる。	R9年度頃	
											なし			
	指標3	まちなみなどの景観に対する満足度	%	38.8	R2	40.3	R7		42.3	○	あり	道路の美装化や修景整備において、これまでの湯田地区における景観と調和したデザインとすることで、温泉情緒を醸成し、地区全体で景観形成が図られたことにより、目標値を上回る満足度となっている。	-	
	指標4										あり			
	指標5										あり			
	3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		その他の数値指標1	湯田温泉の宿泊客数と日帰り客の合計	人	939,196	R1			モニタリング	945,440			継続的な整備を行ってきたことで、湯田温泉の旅館・ホテルの宿泊客数及び日帰り利用者数の増加に繋がり、交流人口が拡大し、目標達成に寄与したものと考えられる。	-
その他の数値指標2												-		
その他の数値指標3												-		
4)定性的な効果発現状況	・整備が進んでいる道路については、安全で快適に歩行者が利用できるようになっており、賑わいもみられる。 ・未整備道路の整備予定も含めて、地元から道路整備を期待する前向きな声や問い合わせもでている。													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等			
	モニタリング	実施なし						都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	—			
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-				
								都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-				
	官民連携による取組	実施なし						都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-	—			
								都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-				
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-							
持続的なまちづくり体制の構築	事業実施段階における、旅館組合や温泉配給組合、商工会関係者や自治会等との継続的な協議						都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	引き続き、当地区の旅館組合や温泉配給組合、商工会関係者や自治会および公共施設の指定管理者などと継続的に協議し、まちづくりに取り組む予定です。					
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-							
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-							

様式2-2 地区の概要

湯田温泉周辺地区(山口県山口市) 都市再生整備計画事業の成果概要													
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値					
大目標 訪れる人、住む人にやさしく心地よい市街地の再生 目標① 交流・にぎわい拠点の整備により、訪れる人、住む人がふれあい、心温まるまちの実現を図ります。 目標② 訪れる人、住む人が街歩きを楽しめる路地空間を創出し、地区内の回遊性を高めます。 目標③ 安全・安心な移動空間を整備し、交通の利便性と安全性の向上に努めます。		多世代交流・健康増進拠点施設、観光案内所の年間利用者数	単位: 人/年	0	R2	100,000	R7	100,000 (R7年10月8日)	R7				
		多世代交流・健康増進拠点施設、温泉街間の通行量	単位: 人/12時間	1,150	H27	1,265	R7	772	R7				
		まちなみなどの景観に対する満足度	単位: %	38.8	R2	40.3	R7	42.3	R6				
			単位:		H		R		R				
			単位:		H		R		R				
 湯田温泉二丁目赤妻町線		 ■ 基幹事業 ・道路事業 路線名: 湯田温泉五丁目4号線 内 容: 高次都市施設接続道路拡幅・歩行者動線の確保 施工延長: 100m				 ■ 基幹事業 ・道路事業 路線名: 上東湯田温泉五丁目線 内 容: 幹線道路拡幅・歩行者動線の確保 施工延長: 670m		 ■ 基幹事業 ・高質空間形成施設 路線名: 湯田温泉二丁目赤妻町線外1線(路地) 内 容: 道路美装化 施工延長: L=180m, L=180m		 ■ 基幹事業 ・高次都市施設 事業名: 多世代交流・健康増進拠点施設整備 内 容: 拠点施設整備1,700㎡ ■ 基幹事業 ・地域生活基盤施設 事業名: 広場 内 容: 芝生広場1000㎡ □ 提案事業・地域創造支援事業 事業名: 多世代型温浴施設 内 容: 温浴施設整備550㎡		 多世代交流・健康増進拠点施設	
 □ 提案事業・事業活用調査 事業評価測定調査 ○ 関連事業(道路事業) 路線名: 県道206号		 ■ 基幹事業 ・高質空間形成施設 路線名: 中央二丁目湯田温泉四丁目線(錦川通り) 内 容: 修景整備 施工延長: L=660m				 ■ 基幹事業 ・道路 路線名(仮) 湯田温泉三丁目線 内 容: 道路新設・歩行者導線の確保 施工延長: L=105m		 多世代交流・健康増進拠点施設					
 凡 例 — 都市再生整備計画区域 面積: 51ha --- 都市機能誘導区域		 凡 例 ■ 基幹事業 ■ 提案事業 □ 関連事業				 多世代交流・健康増進拠点施設							
 ○ 関連事業(道路事業) 路線名: 都一本松粉倉線													
まちの課題の変化		<残された課題> 中央二丁目湯田温泉四丁目線(錦川通り)の修景整備や湯田温泉二丁目泉町線(路地)の道路美装化の残りの整備及び上東湯田温泉五丁目線の道路拡幅等の整備を実施し、温泉街と交流拠点の回遊性・アクセス性の向上を図る必要がある。 <新たな課題> ・新たな課題としては、整備した施設の効果を発揮するため、施設間の動線確保、地元関係団体や地域住民との活用および維持管理体制の整備 ・施設管理者や地元関係組織との協働により、回遊性をより高めるなど、ソフト面の取り組みを強化											
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		本年6月に供用開始した「湯田温泉ここんパーク」で創出された新たな交流や賑わいを、施設内のみにとどまらず、周辺の宿泊施設や飲食店等の民間施設に波及させ、湯田温泉全体の賑わいや人の流れを創出する。 ・幅広い世代や市内外の人々の施設利用を促進するとともに、社会実験イベントの結果や地域住民や来訪者の方々の意見を基に、維持管理方策も含めた公共空間の有効活用に向けた検討、整備を行う。 ・「湯田温泉ここんパーク」から湯田温泉街に向け、賑わいと新たな人の流れを創出するために、施設管理者や地元関係組織との協働により、回遊性をより高める社会実験イベントの開催や情報発信などのソフト面の取り組みを強化する。 ・引き続き、温泉風情の向上に向けた道路空間の高質化や路地整備により、歩行者通行量の増加、回遊性の向上を図るとともに、エリア内の各拠点間の歩行者ネットワークの形成に向けた誘導サインの検討、整備を行う。 ・幹線道路の歩道拡幅整備により、歩行者の安全性と湯田温泉エリアへのアクセス性の向上を図る。											